

● 世界の主な火山活動

平成 26 年（2014 年）2 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

ケルート（Kelut） インドネシア（図中 A） 標高 1,731m

2 月 13 日 22 時 50 分及び 23 時 30 分に大規模な噴火が発生した。噴煙は海拔 17km まで上昇し、火口から 200km を超える広い範囲で降灰が確認された。この噴火により 7 つの空港を離発着する便に欠航が生じ、火山灰と火砕物の降下によって学校、住居、商業施設などを含む建物が破壊された。インドネシアの国家防災庁（BNPB）によると、マラン県では、7 名が犠牲となり、3,782 軒の住宅等に被害があった。また、2 月 18 日には激しい雨により火山泥流が発生し、住宅や橋が破壊される等の被害もあった。

この噴火の前の 2014 年 1 月から 2 月上旬にかけて、地震活動の増加や、山体膨張、火口湖の温度の上昇などが観測されており、これを受けてケルートの警戒レベル（1～4 の 4 段階の指標）は、2 月 10 日にレベル 3、2 月 13 日 21 時 15 分にはレベル 4 に引き上げられていた。

2 月 14 日以降、火山活動は低下し、警戒レベルは 2 月 20 日にはレベル 3 に、2 月 28 日にはレベル 2 に引き下げられた。

シナブン（Sinabung） インドネシア（図中 B） 標高 2,460m

2 月 1 日 10 時 30 分に、大規模な溶岩ドームの崩壊が発生し、火砕流が南に 4.5km 流下した。この火砕流によって立入禁止区域（半径 5 km 以内）に立ち入っていた 15 人が死亡し、2 人が負傷した。その後も噴火は繰り返し発生しており、噴火活動は 2 月の期間を通して継続している。

2 月 9 日には、火口から 5 km 以遠の村からの避難民の帰宅が許可されたが、引き続き、警戒レベル（1～4 の 4 段階の指標）はレベル 4 が継続しており、住民や観光者は、火口から 5 km 以内への立ち入りが禁止されている。インドネシアの国家防災庁によると 2 月 24 日現在、34 の避難所に 16,361 人が避難している。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の G V P（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

